

事業の特徴

流域をつなげる水資源開発

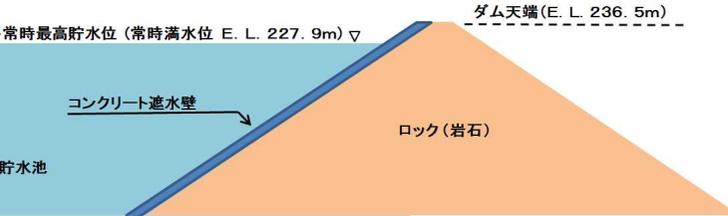
思川開発事業では、黒川や大芦川と南摩ダム貯水池とを導水路で結び、河川の水が多いときは取水導水によりダムに水を貯め、少ないときはダムから河川に水を補給することで、水を融通して効率的に水資源の活用を図ります。また、ダム下流の南摩川や思川の河川の水が少ないときには、ダムから河川に水を補給します。



近代的工法※によるCFRD

南摩ダムはコンクリート表面遮水壁型ロックフィルダム（CFRD）です。このダムは、ダム貯水池側にコンクリート壁を造り、その壁で水を止めます。

■ 南摩ダム 断面図



※近代的工法とは？
過去は投石により、ダム本体の密度を高めて（締固め）いましたが、近年は大型機械を使うことにより、十分な締固めができる工法を採用しています。



| 南摩ダムの諸元 | |
|---------|----------------------------------|
| 型式 | コンクリート表面遮水壁型ロックフィルダム |
| 高さ | 86.5m |
| 堤体積 | 約240万m ³ |
| 総貯水容量 | 約5,100万m ³ |
| 有効貯水容量 | 約5,000万m ³ |
| 導水路の諸元 | |
| 黒川導水路 | 延長約3km, 最大通水量8m ³ /s |
| 大芦川導水路 | 延長約6km, 最大通水量20m ³ /s |

完成予想図

環境の保全

環境に配慮した取り組み

専門家の指導・助言を得て、希少動植物や豊かな生態系の保全を図りながら事業を進めています。

■ 動物移動通路の設置

■ 希少植物の移植

思川開発のことをもっと知りたいなら・・ 思川だより

事業や地域情報の紹介をしています。ホームページでもご覧下さい。（思川開発事業で検索）

思川開発建設所HPへ



※QRコードのリンク先は南摩ダムに関する動画です。約40MBありますので、Wi-Fi環境でのご利用を推奨します。

安全で良質な水を安定して安くお届けする 独立行政法人 水資源機構 思川開発建設所

事業の目的

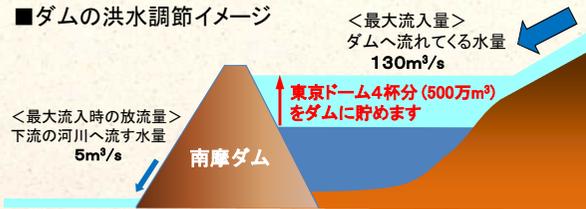
河川の洪水被害や水不足に対処するための3つの役割

治水

洪水から生命・生活及び財産を守ります

南摩ダムはダム地点の計画流量の毎秒130立方メートルのうち、毎秒125立方メートルをダムに貯め込み、下流には毎秒5立方メートルだけを流下させ、下流河川での洪水を減らすための一翼を担います。

■ダムの洪水調節イメージ



■南摩川の状況(左:平常時 右:増水時)

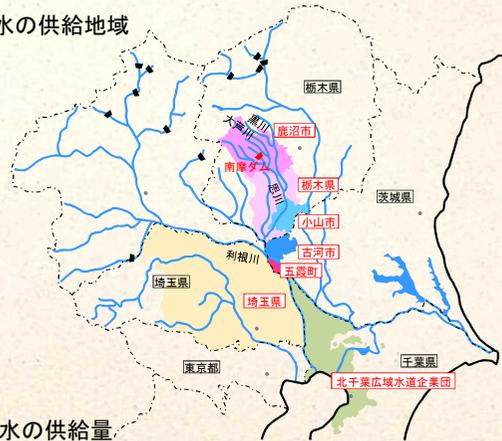


利水

必要な水道用水を供給します

栃木県、鹿沼市、小山市、古河市、五霞町、埼玉県及び北千葉広域水道企業団の水道用水として、最大で毎秒2.984立方メートルを新たに供給します。

■水道用水の供給地域



■水道用水の供給量

| 利水者 | 供給量(m³/s) |
|-----------------|-----------|
| 栃木県 | 0.403 |
| 鹿沼市(栃木県) | 0.200 |
| 小山市(栃木県) | 0.219 |
| 古河市(茨城県) | 0.586 |
| 五霞町(茨城県) | 0.100 |
| 埼玉県(非かんがい期) | 1.163 |
| 北千葉広域水道企業団(千葉県) | 0.313 |
| 合計 | 2.984 |

流水の正常な機能の維持

既得用水*や河川環境などのための水を補給します

南摩ダム及び導水路によって、既得用水の安定化および河川環境保全などのための流量の確保を行い、渇水による瀬切れ*を解消します。

■河川流量の確保のイメージ



※既得用水とは？

農業などにおいて、河川からの取水が既に認められている用水です。

※瀬切れとは？

流水が途切れてしまう状態のことです。瀬切れは、生物や漁業、景観、レジャー等に悪影響を及ぼします。